

研究主題 「児童が意思決定能力を高めていく学習の在り方

- 総合的な学習の時間におけるキャリア教育を通して - 」

東京都教職員研修センター 研修部教育経営課

国立市立国立第二小学校 教諭 稲富泰輝

研究のねらい

平成 11 年「中央教育審議会答申」、平成 16 年「キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」において、小学校からのキャリア教育の必要性が挙げられている。その背景として、

- ・ 自分で意思決定すること
- ・ 自分に自信をもつこと
- ・ 人間関係を築くこと

以上のことを苦手とする児童・生徒が増えつつあることが指摘されている。

「中央教育審議会答申」の中でキャリア教育について、「自己の個性や適性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる教育」と表記されている。これは総合的な学習の時間のねらいである、「自己の生き方を考えることができるようにすること」に共通する部分であり、キャリア教育を総合的な学習の時間で重点的に扱うことが有効であると考えた。

今回の研究では、キャリア教育で付けていくべき力のうち、意思決定能力を高めることを研究のねらいとして、児童が夢や希望をもって自分の生き方を見つめ、将来を見つめ始める単元を総合的な学習の時間において開発した。

また、一人一人の児童が働くことについて具体的に考えることができるように、授業協力者との連携を図ることも有効であると考え、以下の研究仮説を立てて進めてきた。

研究仮説

総合的な学習の時間において、働くことに関する話を聞き自分自身を見つめ、夢や希望をもって自らの生き方を考えるキャリア教育の視点から単元を設定すれば、児童の意思決定能力が高まるであろう。

研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 意思決定能力について

意思決定能力は、キャリア教育の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所）に示されている 4 項目の職業的（進路）発達にかかわる諸能力の中の 1 つであり、選択能力（自分の意思で方向付ける）と課題解決能力（自分の意思に基づいて行動する）に分けられる。（補助資料 4 参照）

(2) 各種報告書などの分析から

職業的（進路）発達課題

キャリア教育推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書の中で、小学校段階における職業的（進路）発達課題として、

- ・ 将来の生き方や職業への「夢や希望」を膨らませ、自分はこの人間になりたいという自己イメージを獲得する段階
- ・ 家庭、学校、地域での諸活動の中で、身の回りの仕事や環境に対する関心・意欲を向上させる段階

が挙げられている。

職業的発達（キャリア教育における発達段階）

D.E.スーパーによれば職業的発達は5つの段階（成長・探索・確立・維持・下降）に分けられ、小学校高学年は最初の成長段階にあたる。この成長段階では、自己の概念が学校と家庭における主要人物との同一視を通して発達する。特に、社会参加と現実吟味を行うことにより様々なことに興味をもち、諸能力を身に付けることができるとされている。

(3) 本研究における意思決定能力

職業的発達課題・職業的発達を踏まえ、本研究では小学校段階における意思決定能力を、

自分自身を見つめることにより明確な自分の考えをもち、そのことに基づいて対象を選び、自分が進むべき方向を決めることができる力

と定義した。

2 単元開発

本研究で児童の意思決定能力を高めるために、以下の3点に留意して単元開発を行った。

- ・ 授業協力者の話を生かし、働くことを考えることができるようにする
- ・ 自分自身の意思決定能力の高まりが見られる、学習カードの内容を工夫する
- ・ 児童が自分について肯定的にとらえ、自ら意思決定能力を高める学習過程を工夫する

(1) 授業協力者との連携について

実際に働いている方から、現在働いている様子や子どもの時のことなどを聞くことにより自分が働く姿を想像したり、今の自分の生活を働くことと関連して見つめ直したりすることができると考えた。

授業協力者と社会生活・家庭生活・学校生活の視点をもって連携を進め、児童が学校生活だけではなく、生活の様々な場面を見つめ直すようにした。今回の研究では国立市商工会（社会生活・地域の視点）、東京経営者協会（社会生活・企業の視点）を通し、授業の意図に適した授業協力者を幅広い視点で紹介していただいた。また保護者からも授業協力者（家庭生活の視点）を募った。（補助資料3参照）

(2) 自分を見つめる「ワークシート」の工夫について

一人一人の児童が、前の時間に記入した内容を基にし、自分の考えを毎時間見つめることにより、意思決定能力の高まりが見えるカードを作成した。そして、毎時間記入することにより、自分の考えがどのようにして明らかになっていったか、どのように変わっていったかが瞬時に分かるよう、単元を通して一枚の学習カードとした。また自らの思いや考えを中心に記入するカードにした。（補助資料1参照）

(3) 単元の流れについて

単元名

総合的な学習の時間 第6学年「ドリームキャッチタイム」

単元のねらい

授業協力者の話をきっかけとし、一人一人の児童が働くことに関しての自分の思いを肯定的に見つめ、自らの生き方を考えることにより、主体的に判断・決定することができる意思決定能力を高める。

指導の流れ

(意思決定能力を高めるための単元計画)(全6時間)

	児童の学習活動	授業者の関わり	意思決定能力の高まり
1 時目	授業協力者の話を聞き、自分を見つめ始める。 ・授業協力者の話を聞く。 ・「ワークシート」にキーワードを記入する。	・ワークシートの記入方法を確認する。 ・キーワードの整理を対話で行う。 授業協力者 家庭・地域・社会の視点で働くことについての話をする。	今の自分の生活を見つめ始めている。
2 時目	前回のキーワードを、自分の考えに基づいて結び付け、生かし方まで考える。 ・グループでキーワードを結び付ける。 ・その後自分の考えに基づいて再度キーワードを結び付ける。	・キーワードを結び付ける方法を確認する。 ・夢や希望をもって結び付け生かし方を対話で明らかにする。	自分でキーワードの結び付けを行うことにより、今、自分がどんな思いをもっているのか気づき始める。
3 時目	前回考えた生かし方を基に、「今の自分」を文にまとめ、新たな視点で自分自身を見つめる。 ・キーワードを結び付け、生かし方を考える。 ・「今の自分」を短い文でまとめる。	「生かし方」の紹介 ・「今の自分」について、キーワードのどの部分に関連しているのか、対話で確認する。 授業協力者に児童の様子を報告	自分の思いを明らかにしながら、自分で取り組んだり、意識したりすることを選び出す。
4 時目	「今の自分」を発表し、授業協力者との話し合いの中で、もう一度「今の自分」について考える。 ・「今の自分」を授業協力者に伝え、話し合いをする。	・具体的に自分を見つめる視点を示す。 ・肯定的にとらえることを対話で確認する。 授業協力者 (報告を生かし)「今の自分」に関連するアドバイスをする。	アドバイスを聞いて、もう一度、自分の生き方についての思いを確認し、よりよい思いをもとうとする。
5 時目	前回の話し合いを基に、「今の自分」について、自分の考えを整理する。 ・授業協力者との話し合いの中から生かすことを考え、もう一度、「今の自分」を見直す。	具体的・肯定的にとらえたキーワードの紹介 ・「今の自分」について3時目との違いを対話で明らかにする。	将来を見つめ、自分が思っていることを明らかにしている。
6 時目	再構成した「今の自分」を発表し、友達の発表を聞きながら自己の生き方を考える。 ・グループで「今の自分」を発表する。 ・発表後、「こういう自分になりたい」を記入する。	・「今の自分」を発表した後で、自分の思いを再度確認していく。	現段階からできることや、将来に向けて取り組むことを明らかにする。

自己の生き方を明らかにすることにより、様々な場面で自分の意思に基づいて、進むべき方向を決定することができる。(補助資料2参照)

研究の結果と考察

1 授業協力者との連携

社会生活（地域・企業）・家庭生活（保護者）・学校生活（指導者）について視点をもつことにより、児童は地域での行事への参加、家で行っている手伝い、普段取り組んでいる学習の目的など、具体的に生活の様々な場面を見つめ直していた。

そして、自分の普段の生活と関連させて「相手を意識して行動する」など自分の思いを明らかにしていった。さらに、2回目の連携の際には自分から、働くことや、学習と働くことの関係などをすすんで質問し、疑問に思ったことを解決しようとする姿が多く見られた。

2 自分を見つめる「ワークシート」の工夫

毎時間、前時に書いた内容を見つめ、新たな自分の思いを一人一人の児童が自分なりに明らかにしていた。「今の自分」についてまとめる場面には、「ワークシート」を使って授業協力者の話した内容を見直したり、キーワードを結び付けたりすることにより、自分の思いに気付いていった。児童はこの気づきを生かして、単元の最後に自分の考えをもつようになったと考える。

指導者は児童の思いを「ワークシート」からも把握した。授業協力者の話を聞き、自分の思いを明らかにする場面では、とまどっている児童に対して、「ワークシート」を一緒に見ながら今の思いを対話で確認することにより、児童は少しずつ自分の夢を明らかにしていった。このことから徐々に、意思決定能力を高めてきたことがうかがえる。

3 意思決定能力を高める学習過程の工夫

児童の意思決定能力の高まりをみるために「ワークシート」の、「今の自分」について書かれた内容の変化を中心に分析した。その結果、児童の意思決定能力の高まりは、おおよそ社会生活・家庭生活・学校生活・自分の将来の夢に分類することができた。

社会生活を中心に意思決定能力を高めていった児童は、最初の「今の自分」については、地域のことをもう少し理解していこうとしていた。しかし、授業協力者から人との支え合いや、地域でよい環境をつくることなどの具体的なアドバイスをもらうことにより、最後の「今の自分」では地域を理解する以外に、人との支え合いやよりよい生活を築くことが大切であるという考えに変容した。

また、自分の将来の夢を明らかにするだけでなく、これから取り組むことや、夢に向かって行動すべきことを考えるとともに、自分が進むべき方向を見付け始めた児童の姿が多く見られた。

今後の課題

1 意思決定能力の高まりを継続してみたい

単元を通して意思決定能力を高めてきたが、今後の生活の中で児童の意思決定能力は更に変容していく。単元が終了後も継続的に地域・家庭・学校が連携して、児童の意思決定能力を更にはぐくみ、温かく見守っていく必要があると考える。

2 小学校段階のキャリア教育の在り方

小学校においてもキャリア教育の全体指導計画を作成する必要がある。各教科等の系統性を明確にし、指導を積み重ねていくことにより効果的なキャリア教育の在り方を明らかにする。

【児童が使用した学習カード「ワークシート」と記入例】

～将来自分が働く姿を見つめて～
「ワークシート」

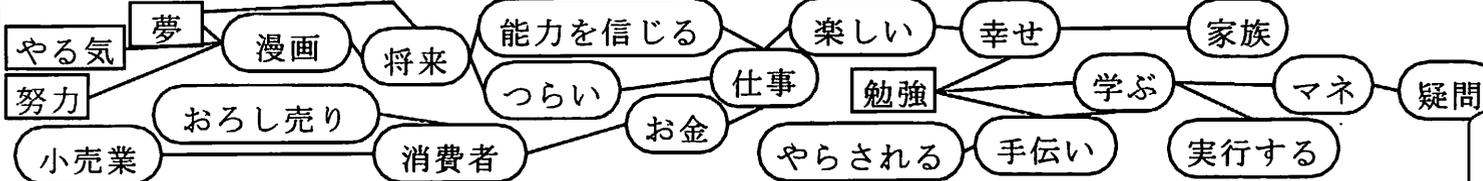
6時間の授業を通して、「こういう自分になりたい」という思いをはっきりさせていこう。

将来の夢について授業協力者の「学ぶこと」の話に関連させて聞いている。

- 1 授業協力者の方の話を聞いて、キーワードを記録しておく。
 (家族関連) 家で働くお手伝い・やらされている・家族の仕事は・何で働いているか
 (地域関連) 一人では生きていけない・働く＝側「はた」で楽「らく」にする・仕事＝仕える事
 (企業関連) 勉強とは学ぶことである・まねをすることが大切・お手伝いは将来役に立つ

将来の夢に関して、必要なことを関連付けながら対話をする。

2 グループでの話し合いの後、自分でキーワードをまとめる。生かすことは口で記入する。



前の時間の結び付けを生かし記入させる。

3 2時間目までの記録を見て「今の自分を考える」を文にまとめる。(4で公表)

私の将来の夢は漫画家です。漫画家はある程度の技術が必要で、その技術を身に付けようと思います。例えば、漫画を一から考え、みんなにみてもらうことです。言うのは簡単ですが、実は「やる気」がとても大切です。漫画家の人は常に決められたページを描くそうです。私も、一つのことに集中して取り組んでいきたいです。

4 「今の自分を考える」を公表し、授業協力者の方と話し合いをする。「自分の将来」を考えながら、キーワードを記録しておく。

- (企業関連) 学ぶ努力が必要・分かるまで聞く
 (地域関連) 支え合う・楽しんで取り組む
 (家族関連) 助け合う

「支え合う」「助け合う」など支え合いの要素を、授業協力者との話し合いで気付く。

今できることを確認し、理由もあげさせる。

5 公表会のキーワードを生かして「今の自分を考える」を文にまとめる。(6で発表)

今の私の将来の夢は漫画家です。しかし、32ページの原稿を目標にして描くときに、「やる気」がなくなってしまうので、私はもっと一つのことに集中するように楽しんで取り組む方法を考えたいと思います。

理由をしっかりと述べて。まだ漫画をかくことが大好きになっていない。一つのことに集中したい。

6 発表会を終えて「こういう自分になりたい」を考える。

私は将来漫画家になりたい。それと、将来つらいことがあったら家族に助けてもらい、家族が困ったことがあったら私が助けるように、家族と助け合えるような大人に私はなりたいと思います。

発表を聞いて参考になる内容を書く

支え合いと将来の夢との関連を対話で確認する。

補助資料 2

【児童の意思決定能力の高まり】

1 本研究で目指した意思決定能力の高まり

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
意思決定能力の高まりの様子	キーワードを記述し、自分の考えに基づいて結び付けを行っている。「今の自分」を見つめている。	「今の自分」を発表し、話し合いの内容を生かし、もう一度「今の自分」を見つめ直している。	「今の自分」について再度見詰め、その理由を明確に示している。	自己の生き方について気付き始めている。友達との共通点、相違点に気付き「こういう自分になりたい」を明らかにしている。
視点	自分を見つめている	キーワードを記入する	理由を挙げている	自己の生き方を明らかにする

2 意思決定能力の高まりの例

(1) 主に学校生活に関連した高まり方

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
児童の学習の様子・授業協力者の話	(授業協力者の話)一人一人が性格を出して生きる。自分に合う仕事は長く続く。(児童の様子)今までの中で苦手になっていた学習を挙げている。	(授業協力者の話)各教科に取り組むときの視点。自分を知る。支え合う。(児童の様子)改めて学習の必要性を感じ、取り組んでいきたいと考えている。	(記述)学習を好き嫌いで判断するのではなく、どの教科も大切である。	(記述)学習に取り組むときに、様々な疑問をもちたい。多くの友達とかかわって一緒に解決していきたい。
意思決定能力の高まりの様子	解決策を考える 現在苦手になっていることを明らかにし、解決策を考え始めている。	視野を広げ考える 学習を苦手になっていることだけでなく、幅広い視野で見つめようとしている。	長所を伸ばそうとする 苦手な教科を克服するだけでなく、長所も伸ばそうとしている。	人との協力を考える 一人で取り組むだけではなく、協力して取り組むことも考えている。
単元を通した意思決定能力の高まり 自分が苦手になっていることを見つめていたが、長所も考え幅広い視野で学習を見つめた。一人で克服するだけではなく、人と協力する視点ももち始めた。				

(2) 主に家庭生活に関連した高まり方

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
児童の学習の様子・授業協力者の話	(授業協力者の話)お手伝いの大切さ。自分から取り組むこと。(児童の様子)お手伝いに疑問をもっている。楽しくやりたいと考えている。	(授業協力者の話)相手も自分も大切にする。気付かないところで支え合う。(児童の様子)人は支え合っていると考え、相手意識が芽生える。	(記述)自分のことは、自分で行うようにしている。どこかで誰かに支えられて生きている。	(記述)最初に考え始めてから、お手伝いを自分からやっている。楽しく、家族や自分のためにやっているから、継続していきたい。
意思決定能力の高まりの様子	もっている気持ちに気付く お手伝いを見直し、自分から楽しく取り組みたいと考えている。	相手のことを意識する 相手の気持ちを考えたお手伝いを意識している。	生活を改善する 自分から取り組みたいから、取り組むに変化している。	今後も継続しようとする 自分から行動するよさに気付く、今後もお手伝いを継続しようと考えている。
単元を通した意思決定能力の高まり 自分がお手伝いに対して正直に思っていたことを見直し、相手のことを考え行動するよさに気付く、今後の生活でも続けていく方向性が見えている。				

(3) 主に社会生活に関連した高まり方

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
児童の学習の様子・授業協力者の話	(授業協力者の話)協力して家族が暮らす。幸せ「仕合わせ＝仕え合わせる」の当て字(児童の様子)地域の中で支え合っていることに気付く。	(授業協力者の話)よい環境のために人との関係をつくる。(児童の様子)人との関係は支え合いが大切で、地域の商店街の役割に気付く。	(記述)多くの人に支えられている。その中で自分であまり気付いていない地域のことを理解し、様々なことに興味をもちたい。	(記述)自分の将来の夢を明らかにしながら、仕事に就くだけではなく、人のかかわりを大切にしたいと考えている。
意思決定能力の高まりの様子	地域に関心をもつ 現在の生活を見直し、自分から地域のことを理解しようとしている。	キーワードをしぼる 地域の授業協力者の話を中心にキーワードをまとめている。	地域から視野を広げる 地域のことを知り、そこから視野を広げて物事に興味をもち始めている。	将来を考え始める 人との関係を意識して、将来のことを考え始めている。
単元を通した意思決定能力の高まり 最初の段階では自分と地域との関係を漠然ととらえていたが、人のかかわりの大切さを地域という存在から意識し、希望をもって将来を見つめるようになっている。				

(4) 主に将来の夢に関連した高まり方

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
児童の学習の様子・授業協力者の話	(授業協力者)仕事の進め方。自分が興味をもっていることを明らかにする。(児童の様子)父親の仕事を中心に家族に働いている様子を聞きたいと考えている。	(授業協力者)仕事にはレベルはない。今から何でも聞くようにする。(児童の様子)仕事にレベルがないこと、物事に興味をもつことを考えている。	(記述)自分自身を理解していきたい。もっている疑問を一つ一つ明らかにしていきたい。	(記述)将来の夢は教師であり、人の役に立ちたい。今から、年下のいとこ相手に一緒に勉強していく。
意思決定能力の高まりの様子	家族の仕事に興味をもつ 将来の希望する仕事を明らかにしようとし、身近な対象から聞こうとしている。	今の生活を考える 普段の学習に対して、自分の視点をもって見つめようとしている。	更に自分を見つめる 自分自身を見つめて、どのくらい自分が物事に対して疑問をもっているかを考えている。	将来の夢を明らかにする 将来の夢を明らかにし、夢に向け、今からできることを自分で決め取り組もうとしている。
単元を通した意思決定能力の高まり 家族の仕事の内容を考え、自分の将来の夢に関連させていった。自分も持っている思いを整理し、現時点で取り組むことができることを明らかにしていった。				

(5) 迷いながらも自分を見つめ続けた高まり方

	1(協力者の話を聞く)	2(協力者と話し合いをする)	3(「今の自分」を再構成する)	4(自己の生き方に気付く)
児童の学習の様子・授業協力者の話	(授業協力者の話)常に疑問をもつ。自分が本当にやりたいことを考える。(児童の様子)自分の考えが見えない。自分について考えていきたい。	(授業協力者の話)将来の夢を具体的に考える。お手伝いを続けると気付くことがある。(児童の様子)自分の中で何ができるかを考え始める。	(記述)まだ、本当にやりたいものが見つからない。だから、少しのことで目標を立て、自分が考えていることに気付いていきたい。	(記述)本当は夢をもっているが、その思いが本当のものなのか、これからも考えていきたい。
意思決定能力の高まりの様子	自分を見つめ始める 自分自身をもう少し見つめていく必要があることに気付いている。	少しでもできることを考える 自分の中で、少しずつ取り組むことができることを考えている。	今の生活を見つめ直す 現在の生活の中で取り組むことができることを考えている。	自分の思いを強くもつ 友達の発表と相違点があっても、自分が考えていることを明らかにしたいと思っている。
単元を通した意思決定能力の高まり 自分自身が考えていることを現在明らかにすることができなくても、少しずつ普段の生活から意識して明らかにしていこうとする意思をもち始めている。				

補助資料 3

【授業協力が者が授業時に話し、児童がまとめたキーワード例】

かかわり 授業協力が者	1回目(1時目) 授業協力が者の話の中から、自分の考えに基づいたキーワードを記入する。	2回目(4時目) (児童が1回目にまとめた)「今の自分」を発表し、授業協力が者との話し合いの中で、「今の自分」を見直すキーワードを記入する。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 今やっていることを将来役立てる 自分からお手伝いをしていく 子供を育てるのも仕事である 学習や習い事のことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を大切にすることは、自分を大切にすることになる 色々なことに挑戦し、失敗してもよい 自分の苦手な部分を見つめることも一つの方法 その場の雰囲気を考え行動する
地域	<ul style="list-style-type: none"> みんなを楽しむのが地域である(働く=側楽の当て字) 私たちはこの地域をよくするために働いている 人は一人では生きていけない 昔の本校は、もっと多くの児童がいた 	<ul style="list-style-type: none"> 気付かないところでも、支え合うことが大切である 行事に参加し、人とかわる、盛り上がる 地域という存在があって、家庭という存在がある 当たり前なことをばかにしない
企業	<ul style="list-style-type: none"> 仕事は色々な人とかかわりで成り立っている お手伝いをしていくことは大切である 自分がどんなことに興味をもっているかを考える 色々な事に疑問をもち、取り組んでいく 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢を具体的に考える 学校を卒業した後にどうするのかも考える 今の学習を将来につなげる 手伝いを続け、毎日行えば好きになっていく
打合せ内容	(保護者)今の生活を見直していく視点 (地域)本校の卒業生で地域に住む人の視点 (企業)自分で取り組む大切さの視点	(保護者)自分を見つめていく視点 (地域)人とかかわっていく視点 (企業)具体的な自分の目標をもつ視点

補助資料 4

【職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)(抜粋)】

		小学校			
		低学年	中学年	高学年	
職業的(進路)発達の段階		進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			
各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人としての必要な資質の形成という側面から捉えたもの。		<ul style="list-style-type: none"> 自己及び他者への積極的関心の形成・発展 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度 			
職業的(進路)発達にかかわる諸能力		職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される			
領域	領域説明	能力説明			
(他の3領域は、人間関係形成能力、情報活用能力及び将来設計能力)					
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなもの、大切なものを持つ。 学校でしてよいこと悪いことがあることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 してはいけないことが分かり、自制する。 	<ul style="list-style-type: none"> 係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果の適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 自分の力で課題を解決しようと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。
(太字は「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す)					

本研究で使用した参考資料・文献

“3 キャリア教育の意義 4 キャリア教育の範囲”. キャリア教育の推進に関する調査研究協力が者会議報告書. 平成16年, p. 8-12. 35.